

第91回神戸大学経営協議会議事要録

日 時 令和2年7月13日（月） 13:29～15:03

場 所 神戸大学本部 大会議室 及び WEB（Webex使用）

出席者 武田議長（学長）、
金子委員、斉藤委員、坂井委員、坂田委員、佐藤委員、高土委員、
寺島委員、平尾委員、藤井委員、水谷委員、小川委員、岡田委員、
杉村委員、吉井委員、品田委員、中尾委員、上野委員

（オブザーバー）吉田副理事、外村監事、林監事、坂本副学長、齋藤副学長、
大月副学長、増本副学長、國部副学長、中村副学長

欠席者 井戸委員、久元委員

議事要録について

第90回経営協議会の議事要録について、特段の意見はなく、役員会として確認の上、神戸大学のホームページに公表する旨説明があった。

審議事項 [委員からの主な意見等（○：意見・質問）]

- 1 達成状況報告書、実績報告書（国立大学法人評価4年目終了時評価）について
第3期中期目標期間の4年目終了時評価に係る達成状況報告書及び実績報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
なお、今後字句修正がある場合は、学長一任とすることを併せて承認した。
 - 4年間を振り返って達成に苦労した目標は何か？
 - 若手教員比率の向上や国際共著論文数について、様々な取り組みを行っているが苦労している。
 - 国際共著論文の特徴として、どの分野に強いと考えているか？
 - 特に医学研究分野や素粒子物理学分野において強みがあると考えている。
- 2 令和元年度財務諸表について
令和元年度財務諸表等について、決算概況書及び附属病院決算に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。また、併せて、財務諸表に添付する事業報告書及び決算報告書について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
 - 文部科学省からの補助金受入額が年々減っているが、どのような理由からか？
 - 複数の補助金事業が相次いで終了した影響が大きい。しかしながら、令和元年度を底として今後挽回していくものと考えている。

- 3 目的積立金の取崩計画について
目的積立金の取崩計画について説明が行われ、審議の結果、原案のとおり承認した。
- 4 令和3年度概算要求について
令和3年度概算要求に係る組織の廃止転換・再編成等及び機能強化経費等について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。
- 新型コロナウイルス感染症の教育及び研究への影響としてはどのようなものが出ているのか？
 - 教育と研究いずれも非常に大きな影響を受けている。例えば、教育に関しては感染予防のため対面講義から原則遠隔講義に切り替えて対応している。今後、対面講義が可能となった場合でも、感染予防のため社会的距離を確保する必要から、多数の学生が集まる講義の実施は難しく、小人数での対面講義と遠隔講義の併用を検討している。
 - 海外からの留学生の受入れや、日本人学生の海外留学にはどのような影響が出ているのか？
 - 海外からの留学生については、日本への入国ができないため、母国で待機している者が多数いる。一方、既に来日している留学生の中には、帰国の目途が立たなくなっている者もいる。また、日本人学生の海外留学についても、再開の目途が立っていない。
- 5 その他
- 遠隔講義を実施してみて感じた短所はあるか？
 - 対面講義では其々の学生の理解度を直に確認しつつ講義を進めることができるが、遠隔講義は一方通行になりがちになることが短所と言える。一方、遠隔講義は海外居住者や障害のある学生にとって、通学を必要としないことが長所として挙げられる。今後、ポストコロナを見据えて、遠隔講義の長所をどのように活かすか検討していきたい。
 - 海洋政策科学部の設置により、海洋ガバナンスという世界的な共通の課題に対し、神戸大学が持っているリソースを活かして積極的に取り組まれることを期待したい。
 - 海洋政策科学部では、①従来の海技者養成教育を継承しつつ、新技術に対応した高度な海技者の養成、②海上・海中・海底における自然科学の探求、③海洋ガバナンスや海洋政策に関する人材育成、これらの実現のため、カリキュラムの充実や新練習船を用いた教育研究等に取り組みたい。
 - 遠隔講義実施に伴い教員の負担が生じたのではないかと？
 - 準備期間が短い中で遠隔講義を始める必要があったため、慣れていないこともあり負担が大きいことは事実である。今後、どのような方法で負担軽減が可能か検討を進めているところである。

- 遠隔講義の導入は技術的には各大学とも想定以上に順調に進んでいるようである。ただし、対面講義と比較してより計画的に実施する必要があるため、教員及び学生への負担が大きくなっていると思われる。
- 非常勤講師が自宅等から遠隔講義を実施するのにあたり、大学から手当の上乗せ等、何らかの支援を行っているのか？
また、ZOOM等の導入に関して何らかの支援を行っているのか？
 - 特別な手当の上乗せは行っていない。自宅等学外から遠隔講義を実施した場合でも、学内で講義を実施した場合と同額の給与を支給している。また、ZOOM等の遠隔講義実施にあたり、必要なアカウントは大学側で準備の上、付与している。ただし、各教員へのパソコンやルーターの提供は行っていない。
- 後期以降の授業に関し、対面講義の再開及び遠隔講義の継続を想定した講義室の割り振り等は検討しているのか？
 - 新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、現在検討を進めている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮している学生が多いと聞いているが、休学や退学の申し出を行った学生はいるか？
 - 現在のところいない。
- 学生に対する経済的支援は実施しているのか？
 - 神戸大学基金より、約930名の学生に対し一律5万円の支援金給付を実施している。また、日本学生支援機構（JASSO）からは、本学学生約1,000名に対し学生支援緊急給付金が給付されている。この給付金については、現在二次募集が行われている。
さらに、海外留学中の学生に対して緊急の帰国要請を行った。これに従った学生に対しては帰国費用の一部補助を実施した。また、反対に海外への留学を断念した学生については、渡航中止に伴う費用の一部補助を実施した。

報告事項

- 1 令和2年度補正予算について
令和2年度補正予算について報告があった。
 - 2 令和3年度施設整備費等概算要求事項について
令和3年度施設整備費等概算要求について、7月16日に文部科学省へ要求事項等を提出する旨報告があった。
 - 3 2019（令和元）年度第4四半期資金運用実績報告について
2019（令和元）年度第4四半期の資金運用実績について報告があった。
 - 4 令和元年度監事監査結果報告について
令和元年度に実施した監事監査について報告があった。
- ◎ 次回は、令和2年9月23日に開催予定。